



東海大学大学院 医学研究科

教員紹介

領域(医学部組織)
口腔外科学

専門分野キーワード

教員氏名 唐木田 一成(からきだ かずなり)
取得学位 博士(歯学)
現在の身分(役職名) 臨床教授(八王子病院口腔外科医長)
専門分野 口腔外科学、口腔悪性腫瘍、口腔癌術後感染症
現在の研究課題 早期口腔がんに対する後発頸部リンパ節転移の予知因子、口腔癌術後感染症のリスクファクターについての研究
所属学会 日本口腔外科学会、日本癌治療学会、日本口腔腫瘍学会、日本頭頸部癌学会、日本感染症学会など

研究内容

口腔がんの予後因子の1つに頸部リンパ節転移がある。特に早期口腔がんの場合、原発巣治療後に出現する後発頸部リンパ節転移の有無が予後を左右する最も重要な因子となる。そのため後発頸部リンパ節転移の発現を予知することができれば、予後向上に寄与すると考えられる。予知因子として臨床的因子(大きさ、厚さ、部位、臨床視診型など)、病理組織学的因子(組織学的悪性度、脈管、リンパ管、神経浸潤など)を検討し、臨床にフィードバックすることで予後の向上を目指している。

一方、即時遊離皮弁再建術を伴う、口腔がん手術においては、術後感染症のリスクが高い。術後感染症の発症は予後やQOLに関与するだけでなく、長期化する入院や治療により医療経済を圧迫する。そのためリスクファクターを宿主、癌、手術、その他の因子に分けて臨床的検討を行っている。これまでの研究で手術因子の関与が大きいことが分かっており、侵襲や出血量が少なく、時間短縮を目指した手術を行っている。また適正な予防抗菌薬の投与についても検討を行っている。

主要論文

1. Karakida K, Aoki T, Sakamoto H, Takahashi M, Akamatsu T, Ogura G, Sekido Y, Ota Y. Ameloblastic carcinoma, secondary type: a case report. Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol Endod 2010; 110(6): E33~7
2. Karakida K, Ota Y, Aoki T, Akamatsu T, Kajiwarra H, Hirabayashi K. Multiple giant cell tumors in maxilla and skull complicating Paget's disease of bone. Tokai j exp clin med 2010; 20;3 5(3): 112~7
3. Karakida K, Aoki T, Ota Y, Yamazaki H, Otsuru M, Takahashi M, Sakamoto H, Miyasaka M. Analysis of risk factors for surgical-site infections in 276 oral cancer surgeries with microvascular free-flap reconstructions at a single university hospital. J Infect Chemother 2010;16(5): 334~9
4. Ota Y, Aoki T, Karakida K, Otsuru M, Kurabayashi H, Sasaki M, Nakamura N, Kajiwarra H. Determination of deep surgical margin based on anatomical architecture for local control of squamous cell carcinoma of the buccal mucosa. Oral Oncol 2009; 45(7): 605~9
5. Aoki T, Karakida K, Otsuru M, Takahashi M, Akamatsu T, Sakamoto H, Ota Y. Postoperative follow-up strategy in patients with oral squamous cell carcinoma. Journal of Oral and Maxillofacial Surgery Sasaki M, 2011;69(6): E105~11

ホームページ: <http://www.hachioji-hosp.tokai.ac.jp/departement/kouku/index.php>